呼 吸 器 内 科

概　　要

部 長 代 行：立川 良
ス タ ッ フ：7名
専　攻　医：9名（2025/4）
日本呼吸器学会教育研修認定施設、日本呼吸器内視鏡学会研修認定施設、
日本臨床腫瘍学会認定施設、日本呼吸療法専門医研修施設

特　　徴

“気管支炎から肺癌まで” 呼吸器疾患全般について、up-to-date な方法での診断と治療をめざし、しかも常にオーソドックスに対処する姿勢を保って医療にあたるというのが当科の変わらぬ基本スタンスです。あらゆる呼吸器疾患の診療が可能で、肺がん・COPD・喘息・間質性肺疾患・感染症・睡眠時無呼吸症候群などの多彩な疾患に対して、難治例も含めて広く診療しています。また、全国トップクラスの救急医療を維持する急性期病院を支える内科として、救急部や集中治療部などと緊密に連携し、迅速かつ先進的な急性期治療を提供しています。どんな疾患や患者にも真摯に対応し、オーソライズされた診療を行うように心がけ、それによって生じた問題を解決すべく臨床研究も欠かさないように努めています。学会・研究会への発表（論文執筆）も盛んです。

呼吸とは、中枢（脳）から末梢（気道・肺・筋肉）の複雑な協調によって均衡を保たれた生命維持機能であり、全身をめぐる血液と外界との接点でもあります。感染症・腫瘍・アレルギー・睡眠など多面的な視点から病態を理解し、急性期から慢性期まで臨機応変な対応ができる医療人であることが、呼吸器内科医として重要な資質と言えます。当科の診療では、肺がん・非がん性呼吸器疾患・呼吸管理・気管支鏡検査・膠原病・呼吸リハビリなどの領域ごとに、多科・多職種・多施設のカンファレンスを開催しています。多科横断的に最新の知識と治療技術を体得しつつ、診療に当たっては全人的な視野を持つことを常に意識し、チーム医療の一員として多様性と協調性を備えた次世代の医師を育成する環境を提供できるよう努めています。スタッフは呼吸器学会・呼吸器内視鏡学会・呼吸療法医学会・臨床腫瘍学会などの指導医・専門医の資格を持っており、将来の医療を担う若い医師達の専門医への道をサポートします。

一 般 目 標

内科学会・呼吸器学会専門医制度に合致した内容のカリキュラムをもって専門知識・技術習得の修練を行い、呼吸器内科専門医としての診療・研究能力を身につけます。

行動目標

1 年目：

1. 最初の 4 ヶ月で呼吸器内科医としての基本をマスターします。特に問診および診察：環境・喫煙歴・住居歴・粉塵曝露歴・アレルギー歴を聞き出すことが呼吸器疾患診療上の重要なポイントとなることを知ってこれを体得します。また診察においては口腔・胸郭の視診にはじまり、表在リンパ節の触診、胸部の打診、心肺の聴診を正しい手技で行ってこれに習熟します。
2. 考えられる治療法の中から患者の状況に応じた最適の治療を決定します。治療計画をたて、実行し、その効果の評価もできるようにします。特に薬物療法については副作用も含めて患者に指導・説明でき、外科療法・放射線療法についても判断できるようにします。
3. 単純写真・CT を多数読影しカンファレンスで検討します。PET 読影も行います。
4. 気管支鏡：複数の Drs とともに週 5 回の気管支鏡検査を行い、これに習熟し、将来の呼吸器内視鏡専門医申請を視野におきます。
5. 生検：気管支鏡下、経皮エコー下ならびに CT 下生検の適応、合併症を習熟し手技に関われるようにします。
6. 呼吸ケアチーム（RST）に参加し、人工呼吸管理に習熟します。
7. 5 ヶ月目以降は必要なら当院内科系他科をローテートし、内科専門医取得のための症例経験数を積みます。

2 年目：

1. 外部連携先で内科専門医およびサブスペ専門医取得のために必要な症例経験数を積みます。
2. 連携先との調整により、連携先呼吸器内科で気管支鏡、CT 下生検などの検査手技の経験数を増やします。

3 年目：

1. 臨床呼吸機能講習会に参加し、肺機能検査のより高度な理解を得てこれに習熟します。

4 年目：(4 年コースの場合)

2. 希望により、他科、他施設へ一定期間研修可能です。
3. 以下の疾患の診療に専門家として対処できるようになっていることを確認します。
   - 肺炎全般
   - 肺結核、非結核性抗酸菌症
   - 喘息、気管支肺アレルギー疾患
   - COPD
   - 間質性肺疾患、びまん性肺疾患
   - 急性呼吸不全、慢性呼吸不全
   - 肺腫瘍
   - 肺肉芽腫性疾患
   - 気胸
   - 胸膜炎・膿胸・胸膜中皮腫
   - 縦隔病変

・睡眠呼吸障害

4. 臨床研究に参加、治験業務に参加します。
5. 専門学会で発表します。

週間スケジュール

<table>
<tr><th>開始時間</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th></tr>
<tr><td>8：00</td><td>救急病棟回診</td><td>救急病棟回診</td><td>肺癌（外科・放射線治療科合同）カンファレンス</td><td>救急病棟回診</td><td>救急病棟回診</td></tr>
<tr><td>8：30</td><td></td><td></td><td>救急病棟回診</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9：30</td><td rowspan="3">気管支鏡検査</td><td rowspan="3">気管支鏡検査</td><td rowspan="3">気管支鏡検査</td><td rowspan="3">気管支鏡検査</td><td rowspan="3">気管支鏡検査</td></tr>
<tr><td>10：00</td></tr>
<tr><td>11：00</td></tr>
<tr><td>13：30</td><td rowspan="3"></td><td></td><td rowspan="3"></td><td></td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>14：00</td><td>CT ガイド下生検</td><td>CT ガイド下生検</td></tr>
<tr><td>15：00</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>16：00</td><td>RST 回診</td><td rowspan="3">肺癌（外科・化学療法）カンファレンス</td><td rowspan="3">呼内ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="2">気管支鏡ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ/膠原病ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ（月1回）</td></tr>
<tr><td>17：00</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

診療実績（2024 年）

【呼吸器内科】2024年

項目					計
主要疾患の入院患者数	肺がん			患者数	289
	肺炎			患者数	276
	喘息			患者数	29
	間質性肺疾患			患者数	119
	ＣＯＰＤ			患者数	39
主要疾患の新規患者数	肺がん			患者数	327
	喘息			患者数	247
	間質性肺疾患			患者数	188
	ＣＯＰＤ			患者数	193
主要疾患の継続患者数	肺がん			患者数	1,012
	喘息			患者数	792
	間質性肺疾患			患者数	825
	ＣＯＰＤ			患者数	646
喘息救急入院の平均在院日数				総在院日数	313
				患者数	28
				平均在院日数	11.2
人工呼吸器装着患者数			全科	患者数	1,440
			呼内	患者数	246
	侵襲的装着患者数		全科	患者数	449
				割合(%)	31.2
			呼内	患者数	51
				割合(%)	20.7
	非侵襲的装着患者数		全科	患者数	991
				割合(%)	68.8
			呼内	患者数	195
				割合(%)	79.3
		急性期	全科	患者数	991
			呼内	患者数	188
		在宅	全科	患者数	46
			呼内	患者数	26
重症呼吸不全ICU、HCU滞在日数 ＊１）			全科	平均在院日数	7
			呼内	平均在院日数	9
治験実施数				実施数	26
臨床試験実施数				実施数	84
気管支鏡検査件数（緊急を除く）				件数	556
呼吸器リハビリテーション実施				患者数	1,517
				件数	17,360
救急入院患者				患者数	899
外来化学療法実施				患者数	245
				件数	2,295

※統計手法により、各診療科のページに掲載している診療実績の数字と異なる場合があります。

研究実績

＜2022 年度＞
国際学会発表：3
国内学会発表：22
英語論文：45

＜2023 年度＞
国際学会発表：4
国内学会発表：24
英語論文：37

<2024 年度＞
国際学会発表：5
国内学会発表：16
英語論文：27

専門研修プログラム

神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラムは、当院ホームページをご参照ください。

URL：http://chuo.kcho.jp/recruit/late_resident

見学等問い合わせ先

立川　良：konai@kcho.jp